

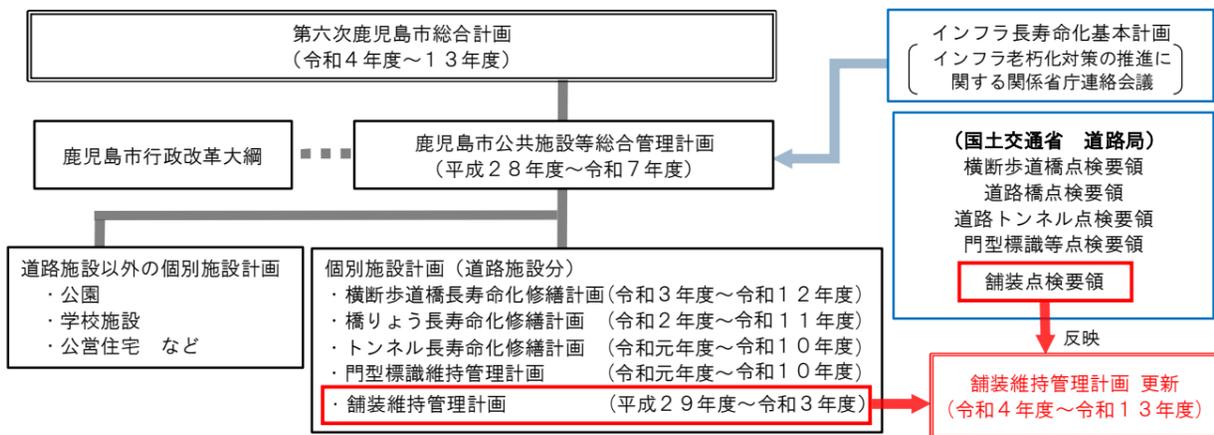
1. 背景・目的

道路は、市民生活及び社会経済活動にとって重要な役割を担っており、生活に欠かせない施設です。その中でも舗装を維持管理していくことは、道路サービスの水準を維持するだけでなく、国土強靱化の観点からも橋りょう等の道路構造物と同様に重要かつ必要不可欠なものです。

本市が管理する道路は、8,618路線、2,675kmと膨大な延長ですが、近年、舗装の劣化が進んでいる状況であり、維持管理コストの累進的な増加が課題となっています。

このような状況の中、安全で円滑な通行の確保、修繕費用の平準化及び維持管理コストの低減を目的として、平成28年度に「舗装維持管理計画」を策定しましたが、策定から5年が経過したことから、今回、修繕効果の検証を行うとともに、昨今の社会経済情勢の中で効果的・効率的な舗装修繕を実施し、予防的維持への移行を進めるため、舗装維持管理計画を更新するものです。

2. 本計画の位置づけ



3. 本計画の基本方針

本市が管理する573路線(約714km)を対象とし、舗装点検要領に基づく本計画の道路分類は下図の通りです。

また、本計画の計画期間は10年間(令和4～10年度)としました。

舗装修繕の実施には、計画路線の重要性や緊急輸送道路、バス路線、都市計画道路等の道路特性を把握し、修繕を実施する上での判断材料として優先度を評価し、損傷状態の評価と合わせて点数化した総合評価を基本とします。

特性	分類	主な道路 (イメージ)	道路分類	路線数
・高規格幹線道路等 (高速走行など求められるサービス水準が高い道路)	A	高速道路	対象外	—
・損傷の進行が早い道路等 (例えば、大型車交通量が多い道路)	B	直轄国道 補助国道・県道	大型車交通量が多い路線 ・大型車交通量 1,000台/日以上(N6以上) ・主要渋滞路線 ・重要物流道路及び代替、補完路	40路線 (約56km)
・損傷の進行が緩やかな道路等 (例えば、大型車交通量が少ない道路)	C	政令市一般市道	大型車交通量が少ない路線 ・B以外の都市計画道路 ・バス路線	195路線 (約267km)
・生活道路等 (損傷の進行が極めて遅く占用工事等の影響が無ければ長寿命)	D	市町村道	B、C以外の路線	338路線 (約390km)

(参考：国土交通省 舗装点検要領)

4. 管理目標

本計画の管理目標等は下表のとおりとし、管理指標としてMCIを使用します。

診断区分	MCI	管理水準	道路の分類と管理目標
I	$5.0 \leq MCI$	望ましい管理水準	B : $MCI > 4.0$
II	$4.0 < MCI < 5.0$	一部補修が必要	
	$3.0 < MCI \leq 4.0$	補修が必要	C・D : $MCI > 3.0$
III	$MCI \leq 3.0$	早急に補修が必要	

MCIとは

路面の破損状態(ひび割れ、わだち掘れ、平坦性)に応じて算出される指標で小さい数字ほど破損が進行している状態です。MCIが5以上であれば良好な管理状態であり、3以下であれば早急に補修を行う必要があるとされています。

5. 修繕事業費シミュレーション

(1) 修繕工法

MCI区分ごとに修繕工法を設定し、舗装修繕事業費のシミュレーションを実施。

道路分類	$4.0 < MCI < 5.0$	$3.0 < MCI \leq 4.0$	$2.0 < MCI \leq 3.0$	$MCI \leq 2.0$
分類B	予防的維持	オーバーレイ	打換え	
分類C	予防的維持		オーバーレイ	打換え
分類D	予防的維持		オーバーレイ	打換え

(2) 舗装修繕事業の方針

厳しい財政状況の中で、予防的維持への移行に向けて取り組んでいくために、現状の予算で、優先度評価を基に修繕を行うことを基本とし、各路線のMCIの管理目標を下回らないよう舗装修繕を実施していきます。

6. 本計画の運用

舗装の維持管理は、計画対象路線のMCIが道路分類毎に設定した管理目標を達成できるよう、下記に留意して取り組んでいきます。

① 総合評価点による優先度評価を基本としつつ、現場状況の判断も取り入れて実施

地区毎に路線の優先度評価を実施し、優先度評価の高い順に修繕を行うことを基本とします。なお、計画対象路線の大部分を占める分類C・Dについては、優先度評価だけでなく陳情や現地状況等を考慮しながら効率的な舗装修繕に取り組みます。

② 工事費のコスト縮減

修繕工事では、工法検討に新工法・新技術を取り入れる等、工事費のコスト縮減に努めるとともに、国庫補助金等の積極的な活用を図りながら、引き続き、優良な財源確保に努めます。

③ メリハリのある舗装修繕

予防的維持として損傷の早期にクラック補修を行うなど、舗装の「補修」と「修繕」を使いわけ、メリハリのある舗装修繕に取り組みます。

④ 計画のマネジメント

計画のマネジメントは、舗装点検要領に基づくPDCAサイクル(右図メンテナンスサイクル)を踏まえ、計画の進捗状況や他事業での実施状況等を随時確認しながら、修繕事業費の平準化に取り組めます。

